

はじめに

「ついに我が家もマイホームデビュー！」

家づくり計画を始めたとき、いちばん希望を叶えたいのが「間取り」です。また同時に、効率よく計画を立て準備をし、知識を蓄えておかないと、家づくりを失敗しかねないのも「間取り」なのです。

これから先、5年・10年・20年と生活を共にする、他の誰のものでもない、あなただけのマイホームです。

間取りにもこだわりを持って、暮らしやすく居心地が良い、オリジナルの家を建てたいと望んで、家族のライフスタイルに合った、間取りの計画方法をこのハンドブックを通して紹介していきます。

間取りの知識をしっかりと身に付け、私たちと共に、あなただけの空間を一緒に作りましょう！



CONTENTS

間取りの基礎を知ろう	4
① 間取りの考え方	
間取りの基礎を知ろう	6
② 動線とは	
プランの種類	8
リビング	8
ダイニング・キッチン	9
寝室・子供部屋	10
浴室・洗面・脱衣所・トイレ	11
廊下・階段・玄関	12
収納・クローゼット	13
間取りの考え方①	14
家族のライフスタイルを知る	
間取りの考え方②	16
ゾーニング	
間取りの考え方③	18

間取りの基礎を知ろう

① 間取りの考え方

家づくりの中で楽しみのひとつが、「間取り」を考えること。思い描いていた夢をかたちにするための第一歩です。

希望の間取りを叶えるために、まずは土地と建物の関係を確認しておきましょう。家を建てるための土地はどんな形をしているのか、道路との位置関係はどうなっているのかなども間取りに関係してきます。

たとえば、一見日当たりが良さそうな南側道路の土地は、玄関や車庫などを道路側に配置する必要があるため、せっかくの南向きであっても、設計上リビングに日差しが届きにくくなるといったことも考えられます。もし道路沿いにリビングをつくるのができなくても、植栽やデッキで目隠しが必要になることも。反対に、北側道路であれば、たくさんの部屋を日当りのよい南向きで持つこともできるのです。また、西側道路、東側道路であっても考慮することができますが、時間帯による採光や日当りの工夫が必要になるでしょう。

人気のある角地では、建ぺい率が1割増になるため、より大きな家を建てるのが可能です。風通しもよく、開放感があるのも角地の特徴。ただし、道路に囲っている部分が多いので、周りからの視線対策にも気をつけたいものです。

このように、敷地によっても考えられる間取りは変わってきます。家族の希望や動線を考えながら、快適で住みやすい家を一緒につくっていきましょう。



間取りは家族のライフスタイルによって十人十色[★]



Point

まずは、今の家族の暮らしをじっくり見直して、生活スタイルにぴったりの家をイメージします。間取りによって、家の中で快適に暮らせるかが決まります。

間取りの基礎を知ろう

② 動線とは

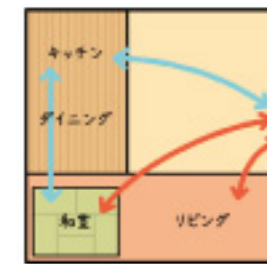
間取りを考えるのに大切なことがもうひとつ。スムーズに家の中を移動できるような「動線」です。動線とは、人がどのように動くかを図面上に線であらわしたものです。この動線をなめらかで動きやすくなるように設計することで、暮らしやすい家ができあがります。玄関からリビング、リビングからダイニングなど、実際に歩く場面を想像しながら考えてみましょう。

家の中での動線は「生活動線」とも呼ばれ、「表動線」「裏動線」、「家事動線」の3つで構成されています。表動線とは、お客様など、家族以外が利用する動線のこと、玄関から各部屋へ移動するなどの動線になります。一方、裏動線とは、キッチンに出入りする動線や、手口からの動線のこと。お客様にあまり見せることがない、プライベートな動線です。裏動線はおもてなしのための動線であるため、お客様の動きとぶつからないようにするのが基本です。表動線と裏動線が重ならないような設計をすることで、お客様も家族もそれぞれが不便な思いをすることがなくなります。

「家事動線」は、その名のとおりに、日常の家事で使う動線のことです。洗濯機から物干し場、キッチンからダイニングなど頻繁に使う動線は、移動しやすい設計にしておくことで、家事の負担も軽減されます。

また、家族であっても、それぞれ利用する動線が違います。家族の1日の行動パターンを考え、もっとも快適な動線を考えるようにしましょう。

押さえておきたい毎日の家事動線



お客様をお迎えする場合の、玄関から各部屋の「表動線」に対しておもてなしをするため、キッチンから出入りする動線が「裏動線」

Point

表動線と裏動線は交差したり、重ならないようにするのがポイントです。